

櫓の光に誘われて 黒坂納涼まつり

8月15日、恒例の黒坂納涼まつりが、黒坂小学校グラウンドで開かれました。
黒坂小学校児童による傘踊りに始まり、日野高校の荒神神楽など、さまざまな催しが繰り広げられ、300発の花火が夜空を彩りました。

黒坂小児童の傘踊りでスタート



一生懸命、的を狙って



勇壮な神楽で観客を魅了



家族の応援で、一本でも多く

いざ挑戦、ラムネの早飲み



家族みんなで日野町音頭を踊る



常に「人間形成」を目指して 頭本 元文さん（下黒坂） 高校野球「育成功労賞」を受賞



「育成功労賞」の盾とともに

8月15日、頭本元文さん（下黒坂・元根雨高等学校野球部監督）が阪神甲子園球場で「育成功労賞」の表彰を受けました。育成功労賞は、20年以上にわたって高校野球の育成と発展に貢献した指導者に対して贈られる賞です。

硬式野球部は地域の夢

頭本さんは、教師を目指し、体育大学に進学。部活の顧問として野球に携わっていきかけたとのこと。

1973年から根雨高等学校に勤務。軟式野球部の監督として指導に当たっておられました。軟式野球部は全国大会3度の出場、76年には、佐賀国体で3位という好成績を残しました。そのころから、硬式野球部は地域の願いでしたが、硬式野球は米子にしかありませんでした。当時のグラウンドは、今のオシドリ観察小屋付近にあった小さなもので、とても硬式野球ができる状態ではなかったということです。

国体の好成績に軟式野球のOB会が後援会をつくり活動を始めました。その後、学校地域が支援し、78年、根雨高に硬式野球部が誕生。頭本さんは、軟式野球の監督から硬式野球の監督となりました。

勝った試合も負けた試合もいい

根雨高野球部での思い出は宝物。

86年には山陰大会で優勝、94年には夏の高校野球選手権大会鳥取県大会でベスト8、95年の鳥取県大会で準優勝という成績を残しています。

準優勝したときには広報ひので特集
平成7年広報ひの7月号



甲子園球場の前で
頭本さん（左）と金田日野高等学校長（元・根雨高硬式野球部長）

甲子園の土を踏んでみて

「甲子園は、野球をする者には憧れの場所。硬式野球部の監督になってから行きたかったが行けなかった。育成功労賞の表彰式で土を踏めたのは感無量。踏んでみて、選手と一緒に来たかった思いが甦った」と笑顔。

ぜひ、日野高等学校で甲子園に行ってほしいと後進にエールを送りました。

「人間形成」を目指して

頭本さんは、高校野球の監督は誰もが野球を通して「人間形成」を目指しているとのこと。

「高校野球はプロではない、教育の場でもあると論され、技術の向上だけでは勝ち続けることは難しい」と20年以上の指導者人生を振り返りました。指導者として信頼が厚く、今でも教え子との交流が続いているそうです。

指導を受けて 今、振り返る



日野高等学校
硬式野球部
石原一紀監督

『今、振り返ってみると、勝負へのこだわりが強い先生だったと感じます。指導も的確で、続けると結果を残すことができました。思い出は、バントと守備がしっかりできる選手になれと言われたこと。最後に褒めてもらうことができ嬉しかったことを覚えています。』
同じ道を歩んで、頭本先生だったかどうかと意識します。目標でもあり、超えた監督です。久しぶりのユニホーム姿は惚れ惚れしました。泣きそうでした。』